平成31年度　「学力向上のための学校改善プラン」

学校名	苫小牧市立清水小学校

校長名	松　井　操　人				教頭名　後藤　敏彦			教務主任　下江後洋介		研究部長	安田美加子	
教職員数	28	通常学級数	9	特別支援学級数	知的1，自閉情緒2	児童数	243	ＰＴＡ数		HPアドレス	www.simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp	

本年度の学力向上のための学校改善プランを作成するにあたっての基本的な考え方	「Ａ９で繋がるチーム開成校区」をスローガンに、全市で統一して取り組む「苫小牧市学校教育力向上マスタープラン」を軸にして「苫小牧市学力向上アクションプラン」を推進し、共通取組事項を踏まえた全ての教科における授業改善を行う。また、下支えする「清水スタンダード」を「小中のスタンダード」に向けて取組をすすめていく。

1　学校の状況

平成３０年度末の状況	中間検証時の状況
国語や算数の授業で「課題」や「まとめ」を板書することができたが、他教科では特に「まとめ」を行うことができなかった。また、１時間の授業の「振り返り」の時間の定着にも課題が見られた。平成３０年度の全国学力・学習状況調査においては、平均正答率で国語Ａは全国平均より２．３ポイント上まわり、国語Ｂは４．３ポイント上回る結果であった。また、算数Ａでは全国平均より２．５ポイント上回り、算数Ｂでは１．５ポイント上回り、理科では２．７ポイント上回る結果であった。苫小牧市統一学力検査の偏差値は、４年国語４５．６で、４．４ポイント下回り、算数は４４．１で、５．９ポイント下回った。５年国語は４５．６で、４．４ポイント下回り、算数は４５．３で、４．７ポイント下回った。６年国語は５１．９で、１．９ポイント上回り、算数は５１．９で１．９ポイント上回った。統一学テ結果から各学年ごとの課題が分かり、４年国語は「言語事項・読むこと」・算数は「数と計算・量と測定・図形」、５年国語は「言語事項」・算数は「数と計算」に課題が見られた。今後、課題が見られる領域を中心に取組を進めていく。清水スタンダードは、課題やまとめの板書を他の教科にも応用できているが、現在小中スタンダードの完成を待っている状態である。	

2　学力向上の具体的な到達目標

平成３１年度	中間検証	
（１）平成３１年度全国学力・学習状況調査では、国語・算数・理科ともに全国平均を０．３%上まわる結果を目指す。 （２）苫小牧市統一学力調査では、全教科全領域において全国平均を０．３%上まわる結果を目指す。 （３）チャレンジテストにおいて、全道平均の正答率を上回る結果を目指す。 （４）宿題や家庭学習を行った（Ａ＋Ｂと答える）と言える割合を８５%以上を目指す。 （５）ＬＩＴによる授業公開に、１人１回以上参観する。	プランの変更 有　・　無 進歩状況の評価 Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	考察（到達目標の見直しを含む）

3　学力向上の具体的な到達目標を達成するための今後の具体的な取組（項目別）

	主な取組内容	取組内容の評価指標	1学期				2学期					3学期			中間検証	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	評価	改善のために行う今後の重点
指導方法・指導体制を含めた授業改善	算数科において習熟度別少人数指導やＴＴ指導など、指導方法の工夫改善	３年以上で、ＴＴ指導３５時間・習熟度別少人数指導２１０時間以上確保する。（３，４，５年は単学級のため、１，２年もＴＴ指導５０時間【各クラス２５時間】実施）。	指導計画の作成・提示	ＴＴ指導・習熟度別指導の授業実践											Ａ Ｂ Ｃ Ｄ	
	共通取組事項（本時の目標の焦点化・本時のゴールのイメージ化・ねらいとまとめの視覚化）をふまえた授業改善	すべての学級で年１回以上の研究授業（ブロック授業含む）を行う。すべての教科で焦点化した目標を立てた授業９０%以上。すべての教科で視覚化した「ねらい」と「まとめ」を板書もしくは口頭指示した授業９０%以上。	研究の共通理解	全体及びブロックごとの研究推進					校内授業研究①②	校内授業研究③			成果と課題把握			
	授業で自分の思いや考えを説明したり発表したりする場の工夫（言語活動の充実）	ペア学習やグループ学習など、授業で自分の考えや思いを説明したり発表したりする。（学校評価でＡ・Ｂと答える割合を７０%以上）授業で説明・発表する場の工夫を行う割合を９０%以上	日常的に実施検証					中間検証								
学習内容の定着および基礎学力の向上	４，５年で、全国学テの過去問題の実施	過去問題の全国・全道平均同等の得点。無答率を５%以下とする。	随時過去問題の活用												Ａ Ｂ Ｃ Ｄ	
	全国学テおよび苫小牧市統一学力テストの実施および分析	全教科全領域で全国平均を０．３%上回る。無答率を５%以下とする。分析結果から課題解決のために、全校としての取組を実施。	全国学テ・統一学テ実施検証	全国学テの分析	統一学テの分析	分析結果からの取組内容検討実施										
	チャレンジテストの継続的な実施および分析	チャレンジテストの正答率を全道平均以上。無答率を５%以下とする。	チャレンジテスト実施検証			チャレンジテスト実施検証	チャレンジテスト実施検証				チャレンジテスト実施検証	チャレンジテスト実施検証	チャレンジテスト実施検証			
	漢字の習得、九九や四則計算などの習得	ミニテストや単元テストで正答率８０%以上。	ミニテスト単元テスト実施検証										年度末検証			
学習習慣の定着	清水スタンダードの徹底を徹底	全教員が同じスタンスで児童の指導にあたる。課題とまとめが書かれた板書・ノート指導８０%以上。	日常的に実施検証 学習規律の配布												Ａ Ｂ Ｃ Ｄ	
	「家庭学習の手引き」を活用した家庭と連携した学習の習慣化	家庭学習時間「学年×１０分＋１０分」の実施８０%以上　　宿題や家庭学習を行ったと言える割合８０%以上	日常的に実施検証 家庭学習の手引き配布				生活リズム週間アンケート実施で点検改善				学校評価（児童アンケート）で確認検証	生活リズム週間アンケート実施で点検改善				
	日常的な読書の充実および読書習慣の定着	学校図書館の貸出冊数、１人当たり前年度＋２冊以上、１年生は昨年度の１年生の貸出冊数の平均以上 家読（うちどく）は「読書カード」を活用し、１０分以上	日常的に実施検証			学期末に昨年度との比較・検証					学期末に昨年度との比較・検証		年度末に昨年度との比較・検証			